

一一〇〇一年出土の木簡

概要

本号には、昨年の研究集会で「一一〇〇一年全国出土の木簡」と題して報告された遺跡を中心に、六二遺跡の木簡についての情報を掲載することができた。発掘調査・整理作業などにご多忙な中、執筆していただいた諸氏、ならびに掲載をご許可くださった関係各機関に対し、心より御礼を申し上げます。

以下、時代順に一一〇〇一年の出土木簡の概要を紹介する（一部それ以前も含む）。

まず、飛鳥や藤原京で木簡の出土例が増えていることが注目される。石神遺跡・飛鳥池遺跡で評・五十戸で地名を表示した付札などが出土し、藤原宮・京でも出土事例がある。飛鳥池遺跡の木簡や去年の研究集会で報告された藤原京跡左京七条一坪西南坪の出土木簡なども加えて、近年の成果は著しい。一九八八年の長屋王家木簡の出土によって、八世紀前半の木簡が本格的な研究課題として浮かび上がったが、七世紀後半の木簡が、いよいよ本格的に研究の俎上に

登つてくる予感がする。

八世紀以降の古代都城などでは、東大寺で銅の付札などが出土している。多くの木簡が出土した大仏殿西廻廊隣接地の自然流路の西側延長部に相当し、出土木簡も一連のものと考えられるという。宮町遺跡（紫香楽宮）では、西大溝から木簡が出土している。貢進物の付札が多い。この溝からはこれまでにも多くの木簡が出土している。宮町遺跡はその中心部分が姿を現しつつあり、木簡だけではなく、遺構も注目されるところである。本号では同遺跡の近年出土の木簡を、まとまつた形で写真を掲載している。平城京などの木簡と同じく、見慣れたものであるが、その点こそが重要である。長岡京では右京七条二坊七町から木簡が出土し、平安京右京六条三坊で、一町全体に広がる大規模宅地を構成すると思われる建物・園地が確認され、木簡も出土している。難波津の歌や九九などの木簡がみられる。偶然であろうが、近年、難波津の歌の事例が相次いでいる。

東に目を移すと、宮城県市川橋遺跡が注目される。この遺跡は多賀城の前面に位置し、この地域が方格状に道路がのびる都市的な景観であったことが、徐々に明らかになってきている。これまでにも

2001年出土の木簡

遺跡名	所在地	点数	木簡の年代	遺跡の性格
平城京東市跡推定地	奈良県奈良市	5	古	代
薬師寺旧境内	奈良県奈良市	6	中世	以降
旧大乗院庭園	奈良県奈良市	3	近	代
○東大寺	奈良県奈良市	20	古	代
○藤原宮跡	奈良県橿原市	3	古代	・中世
○藤原京跡左京二条二坊	奈良県橿原市	3	古	代
藤原京跡左京六条二坊・七条二坊	奈良県橿原市	1	中	世
(○)石神遺跡	奈良県明日香村	85	古	代
○飛鳥池遺跡	奈良県明日香村	27	古	代
長岡京跡	京都府長岡京市	5	古	代
○平安京右京六条三坊七・八・九・十町	京都府京都市	13	古	代
※ 佐山遺跡	京都府久御山町	13	中	世
大坂城跡	大阪府大阪市	3	中	世
※ 東心斎橋一丁目所在遺跡	大阪府大阪市	1	近	世
広島藩大坂蔵屋敷跡	大阪府大阪市	7	近	世
○鬼虎川遺跡	大阪府東大阪市	3	中世	・近世
※○上津島遺跡	大阪府豊中市	1	中	世
※○上町東遺跡	大阪府泉佐野市	1	近	世
※○六条遺跡	兵庫県芦屋市	4	古代	・中世
○明石城武家屋敷跡	兵庫県明石市	3	近	世
※○溝之口遺跡	兵庫県加古川市	1	古	代
※○赤穂城跡二の丸	兵庫県赤穂市	2	近	世
※○志賀公園遺跡	愛知県名古屋市	6	古	代
※○下懸遺跡	愛知県安城市	1	古	代
※ 仁田館遺跡	静岡県函南町	865	古代	・中世
※○史跡建長寺境内	神奈川県鎌倉市	7	中	世
○宮町遺跡	滋賀県信楽町	1800 + α	古	代
※○柳遺跡	滋賀県草津市	14	中	世
※○八角堂遺跡	滋賀県長浜市	1	古	代
○柿田遺跡	岐阜県可児市	1	古	代
※ 八幡遺跡群社宮司遺跡	長野県更埴市	1	古	代
○荒田目条里制遺構・砂畠遺跡	福島県いわき市	10	中	世
※ 泉廃寺跡 (陸奥国行方郡衙)	福島県原町市	1	古	代
中野高柳遺跡	宮城県仙台市	1	古	代
市川橋遺跡	宮城県多賀城市	49	古	代
※○仙人西遺跡	岩手県水沢市	8	中	世
※○十二牛B遺跡	秋田県横手市	2	古	代
※○観音寺廃寺跡	秋田県大森町	4	古代	～近世
※ 本荘城跡	秋田県本荘市	39 + α	近	世
※○北遺跡	秋田県五城目町	1	中	世
※○盤若台遺跡	秋田県琴丘町	2	中	世
※ 高間(六)遺跡	青森県青森市	1	古代	以降
○福井城跡	福井県福井市	24	近	世

畠田・寺中遺跡	石川県金沢市	6	古	代	集	落
※○北中条遺跡	石川県津幡町	2	古	代	集落・官衙	落
※○指江B遺跡	石川県宇ノ気町	10	古	代	集	落
※○四柳白山下遺跡	石川県羽咋市	1	中	世	集	落
※ 寺地遺跡	新潟県郡青海町	2	近	世	遺物散布地	落
※ 岩倉遺跡	新潟県糸魚川市	1	中	世	遺物散布地	落
※ 六日町余川地内試掘調査 地点	新潟県六日町	1	古代・中世		遺物散布地	落
※○北小脇遺跡	新潟県吉田町	6	中	世	集	落
※ 浦廻遺跡	新潟県白根市	4	中	世	遺物散布地	落
船戸桜田遺跡	新潟県中条町	1	古	代	官	官衙
船戸川崎遺跡	新潟県中条町	2	古代・近世	代	官	衙府
出雲国府跡	島根県松江市	7	古	近代	国	府
※○川入・中撫川遺跡	岡山県岡山市	1	古	代	集	落
※○安芸国分寺跡	広島県東広島市	50+ α	古	代	寺	院
※○南前川町一丁目遺跡	徳島県徳島市	12	近	世	城	下
※(○)南斎院土居北遺跡	愛媛県松山市	5	中	世	集	下
※ 高知城伝下屋敷跡	高知県高知市	48	近	世	城	下
○中原遺跡	佐賀県唐津市	9	古	代	集	落
※○京田遺跡	鹿児島県川内市	1	古	代	水田・流路	

※は木簡新出土遺跡

○は2000年以前出土遺跡

(○)は2000年以前出土もある遺跡

木簡の出土はみられたが、今回、五〇点以上と、まとまつた点数の木簡が出でていて、「借貸正税」「税長」と記載した木簡や題籤軸文書様の木簡、荷札など、多様な内容である。

新潟県六日町で試掘調査の結果、「田租料」などと書かれた木簡が出土している。遺構や共伴遺物などはほとんどないが、内容からみて古代の木簡の可能性が考えられる。後の史料にみえる上田荘との関連も考えられるという。

石川県畝田・寺中遺跡は戸水C遺跡、金石本町遺跡などと隣接する遺跡で、加賀国加賀郡の中心地に立地する。郡符木簡や召文と思われる木簡などが出土している。郡符木簡は現状で約30cmある大型の木簡で、折られた上、廃棄されたものようである。また、「右大弁史田家」と記載された木簡もある。「右大弁史」は右大弁（または史）を指すのであろうが、その田家とは莊園管理施設のようなものであろうか。北陸地方であることも含めて興味深い。同じく石川県の指江B遺跡（九八・九九年度調査）では、神社名を記した、厄を祓うために地面に立てて使用したと思われる、八0cmを越える長大きな木簡が出土している。今年七月の兵庫県日高町での特別研究集会での議論のように、地面に立てる木簡の事例も蓄積が進んでおり、さらに追究されるべき課題であろう。

西日本では、広島県安芸国分寺跡が注目される。木簡は五〇点以上にのぼる。国分寺関係では、もつともまとまった事例であろう。

文書様の木簡、荷札・付札をはじめ、題籤軸、封緘木簡もあり、削屑も含まれる。木簡の主だった種類がすべて、この木簡群に含まれるといつてよい。墨書き土器も多く出土している。木簡は安芸国分寺創建期の法会に関わると思われ、鋪設・米の消費などの状況を示す。天平勝宝二年の年紀をもつものもあり、安芸国分寺はこの段階で法会を開催しうるほどの、相当に整った状態であつたと考えられるといふ。国分寺の造営過程を考える上で大きな成果であるが、むしろ、国分寺における法会の具体相を示している点に惹かれる。島根県出雲国府跡でも近年、再び調査が行なわれていて、建物名・人名などが記された長大な木簡などが出土している。

佐賀県中原遺跡では、一九九九年に統いて、肥前国松浦郡大村郷（あるいは駅）を示すと思われる木簡や歴名と思われるものなどが出土している。「少領」の墨書き土器などが出土している点は興味深いが、遺跡の性格はいまだ明確ではないようである。

鹿児島県京田遺跡出土の木簡は県内で初の古代木簡である。材木を四角形に面取りし、四面に墨書きを施すという特異な形である。「告知」の文言ではじまる告知札で、これも地面に立てられていたものである。条里の記載があること、大領が薩麻公であることなどが注目されている。

大分県飯塚遺跡の木簡は本誌二二号すでに報告されているが、遺物の整理の過程で、新たな木簡が確認され、それをもとに遺跡の

性格に対する見通しが立てられるようになつてている。この遺跡は農業をはじめとする多角的な経営体の拠点であるが、その経営主体は、遺跡からも近い豊前国宇佐郡の宇佐神宮およびその神宮寺と考えられるという。この点については、祝文の訂正と追加の飯塚遺跡を参考していただきたい。

中世では、やはり卒塔婆・柿経・呪符木簡といった宗教的な木簡の出土が多い。

静岡県仁田館遺跡は、仁田氏の居館であるが、自然流路から法華経を記した柿経八六五点が出土した。書き損じて、裏面に書きなおしたものや、一枚の板に二行を書きこんだものなどもあり、写経方法を考える素材となるという。滋賀県柳遺跡では、金剛般若経を記した柿経が出土している。福島県荒田目条里制遺構・砂畠遺跡では、大型の掘立柱建物などにともなつて、梵字を記載した木簡や柿経が出土した。柿経には完形の増堀が共伴し、祭祀のあり方として興味深い。

大阪府上津島遺跡・兵庫県六条遺跡・新潟県北小脇遺跡からは、蘇民将来札が出土した。岩手県仙人西遺跡では、居館を取り巻く堀跡から梵字などを記載した木簡が出土している。愛媛県南斎院土居北遺跡では、居館の区画溝から、五輪十種子十院号の形式をもつ真言宗の四十九院塔婆が出土している。このタイプの塔婆が遺跡から出土したのは初めてであるという。

大阪府鬼虎川遺跡では一九八一年の調査で出土した笠塔婆が、出

土木製品を保存処理するなかで文字が浮き出し、二〇年ぶりに墨書きの存在が確認された。

近世では、城郭・城下町からの出土例が、近年の動向どおり多い。大阪府広島藩大坂藏屋敷跡・福井県福井城跡・徳島県南前川町一丁目遺跡（徳島城下町）は以前の調査でも木簡が出土しており、本号の木簡も同じ性格と思われるものである。

高知県高知城伝下屋敷跡は高知城内堀の南西隅外側に立地し、藩主山内氏に関連する施設が置かれたといわれる場所であり、「松平土佐守」と記載された木簡や荷札などが出土し、地方知行の実態に関わる新たな史料を提供している。兵庫県赤穂城跡二の丸では、大石内蔵助の大伯父にあたる大石頼母の名がみえる木簡などが出土している。頼母の屋敷から廃棄されたものであるという。秋田県本荘城跡では、三の丸の北西部の奥御殿があつたとされている地域から、「御膳所御用」と書かれた木簡が出土し、台所の存在が推定されている。

新潟県寺地遺跡は村方の遺跡であるが、年貢関係と思われる木簡が出土している。斗量が七斗であり、一般的ではないようである。以上のように、多くの木簡の出土を本号に収録することができたが、種々の事情で、依頼を見合せるなどして、掲載できなかつた遺跡もある。奈良県藤原京跡左京七条一坊西南坪（飛鳥藤原第一・五次調査）・藤原京跡左京十二条一坊・飛鳥京跡苑池（第一・三次調

査）、兵庫県赤穂城下町跡・愛知県貞養院遺跡・東京都東京駅八重洲口北口遺跡・江戸城跡北の丸公園地区遺跡・岩本町二丁目遺跡・本郷元町遺跡・住吉町南遺跡（A地点）・法光寺跡・信濃町遺跡・創価世界女性会館地点・市谷田町一丁目遺跡・千駄ヶ谷五丁目遺跡（第二次調査）・横川一丁目遺跡・滋賀県宮町遺跡（第二八次）・群馬県薬師遺跡・宮城県仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第七地点（二〇〇一年度調査）・秋田県厨川谷地遺跡・岡山県岡山城二の丸跡・福岡県下月隈C遺跡（七次）。

また、奈良県太田遺跡・西橋遺跡・飛鳥寺南方遺跡・京都府御土居濠跡（第三次）・伏見城跡・兵庫県赤穂城本丸跡・兵庫津遺跡・姫路城跡・三重県桑名城下町遺跡（伊賀町六九地点）・喜春遺跡・静岡県箱根田遺跡・神奈川県佐助ヶ谷遺跡・東京都江戸城跡和田倉遺跡・溜池遺跡・外神田一丁目遺跡・江東橋二丁目遺跡・茨城県羽黒遺跡・長野県綿内遺跡群南條遺跡・栃木県樺崎寺跡（第一六次）・福島県鎌田館跡・山形県古志田東遺跡・岩手県柳之御所跡（第五三次）・北海岸上之国勝山館跡・石川県金石本町遺跡（第三次）・木ノ新保遺跡・上町カイダ遺跡・新潟県牧目館遺跡・平林城跡・春日山城跡・伝至徳寺跡・新堀村下遺跡・香川県高松城跡・福岡県立花寺B遺跡・長崎県鷹島海底遺跡・鹿児島県浜町遺跡・については本号にも掲載することができなかつた。今後、本会としても最善を尽くしていきたい。

（鷺森浩幸）